

緑地区



【地区の自然環境概要】

緑地区は、里及び街の要素を持つ地区です。

中央部から西部にかけては、「**県立小田原高等学校の樹叢**」や「**城山公園**」など、市街地のそばにも豊かな緑が広がり、市民の安らぎの場となるとともに、市街地から山地に遷移する丘陵地等の里地里山環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。

また、中央部から東側は、小田原駅を中心に商店街や金融機関等が集中する小田原市で最も市街化された区域であり、市街地や住宅地を好む動植物の生育・生息の場となっています。



【地区で見られる動植物】

市街地を主体としながらも樹林環境や里地里山環境もあり、このような環境を利用する動植物の生育・生息の場となっています。特に、常緑広葉樹林が残存する環境は全国的にも希少であり、大切に守ってきたい環境です。

- 「**県立小田原高等学校の樹叢**」や社寺林を中心にスダジイやタブノキなどの比較的大きな大木を含む常緑広葉樹林が残存しており、全国的にも希少な環境となっています。イノデやアラカシ等の植物や、シジウカラやキジバト、ヒヨドリ等の鳥類、ヒガシニホントカゲやニホンヤモリ等の爬虫類、クマゼミやムラサキシジミ、トウキョウヒメハシモウ等の昆虫類などが見られ、樹林から緑の多い住宅地を特徴づける種が生育・生息しています。¹
- 城山周辺や市街地の神社・寺院では、アオダイショウやシロマダラ等の爬虫類も多く確認され²、ツバメやスズメ等の市街地から里地里山にかけてよく見ることのできる身近な種も確認されています。³



シジウカラ



ツバメ



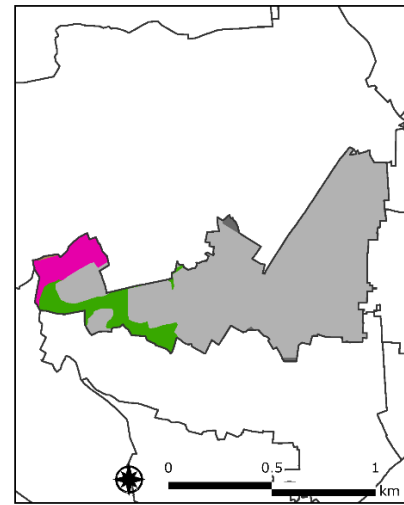
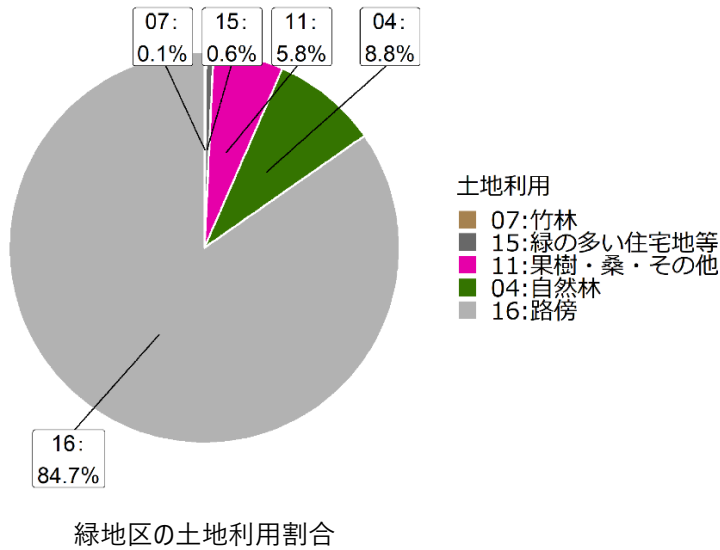
ヒガシニホントカゲ

¹ 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

² 参考：平成 29 年（2017 年）～令和元年（2019 年）に実施したヒアリング調査結果

³ 参考：平成 29 年度 小田原市自然環境等現況調査委託業務 文献調査結果

- 植生図をもとに作成された土地利用を見ると、路傍が約 8 割を占めますが、西部の一部で自然林や果樹園等が見られます。⁴



緑地区の土地利用

【暮らしと自然のつながり（生態系サービス）】

自然体験・観察の場や身近にある緑など、日々の生活の中で自然環境からの恩恵を受けています。

～文化的つながり～

- **自然体験・観察の場**：「城山公園」は、森林公園として市民に親しまれる一方、一部は陸上競技場として整備され、レクリエーションの場として活用されています。また、スダジイやタブノキ、イヌマキ等の暖帯の自然林の観察や、イヌシデやケヤキなどの落葉樹、林間の野鳥や樹林・草地の昆虫などの自然観察にも適しています。⁵
- **神社・寺院**：寺院が複数あります。寺院の社寺林は、生活の身近にある緑として住環境の向上や心の安らぎに寄与します。また、一般的に神社・寺院の境内は、こどもの遊び場としても役立ってきました。
- **景観スポット**：「城山公園」からは、相模湾や小田原城天守閣、市街地の眺望を楽しむことができます。⁶

【地区で見られる特徴的な自然】

特定植物群落や天然記念物等に指定されるなど、大切に守り残していきたい自然環境が存在しています。

- **特定植物群落・天然記念物・神奈川県生物多様性ホットスポット**：「**県立小田原高等学校の樹叢**」は、開発が進む中でも残存した数少ない照葉樹林であり、特定植物群落（環境省選定）⁷、天然記念物（神奈川県指定）、及び神奈川県生物多様性ホットスポット（NPO 法人神奈川県自然保護協会選定）に選定されています。

特定植物群落選定理由

名称	選定理由
県立小田原高等学校の樹叢	郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの

※出典：第 5 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書（環境庁自然保護局生物多様性センター、平成 12 年（2000 年））

⁴ 出典：日本全国標準土地利用メッシュデータ（国立環境研究所）

⁵ 出典：小田原の自然（小田原市教育研究所、平成 9 年（1997 年））

⁶ 出典：小田原市 HP「公園」を基に作成 <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/public-i/park/>

⁷ 特定植物群落：わが国の植物相を形づくっている植物群落のうち、規模や構造、分布等において代表的・典型的なもの、代替性のないもの、あるいはきわめて脆弱であり、放置すれば存続が危ぶまれるものなどについて、その実態を把握し、保護対策を検討する必要があるとして、環境省が実施する自然環境保全基礎調査で特定植物群落に選定されたもの

天然記念物概要

名称	指定	指定年月日	所在地	概説
県立小田原高等学校の樹叢	県	昭和46年（1971年） 3月30日	県立小田原高等学校	県立小田原高等学校の南側にある樹叢は、数少ない残存照葉樹林。樹叢を構成する高木層にはシラカシ、クスノキ、ヤマモモ、ホルトノキ、ヒメユズリハ、ヤブツバキ、ヤブニッケイなどの代表的照葉樹があり、更にムクノキ、ミズキ、ケヤキ、カラスザンショウ、クロマツ、スギなどの広葉落葉樹や針葉樹が混生している。また、亜高木層、低木層、草本層の常葉植物も多数生育している。なお、この樹叢中に市内最大級のヤマモモとツバキがある。

※出典：小田原市 HP「天然記念物」 <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/lifelong/property/cultural/natural/>

神奈川県生物多様性ホットスポット選定理由

名称	選定理由
県立小田原高等学校の樹叢	希少種、レッドリスト種などが集中して産する地域以外で、神奈川県や地域の生物多様性の保全上、特に重要な地域

※出典：かながわの自然 No.67（NPO 法人神奈川県自然保護協会、平成 30 年（2018 年））

- **巨樹・巨木林**：「城山公園」に生育するタブノキは、環境省が実施する自然環境保全基礎調査の巨樹・巨木林調査⁸で、保全すべき巨樹に選定されています。

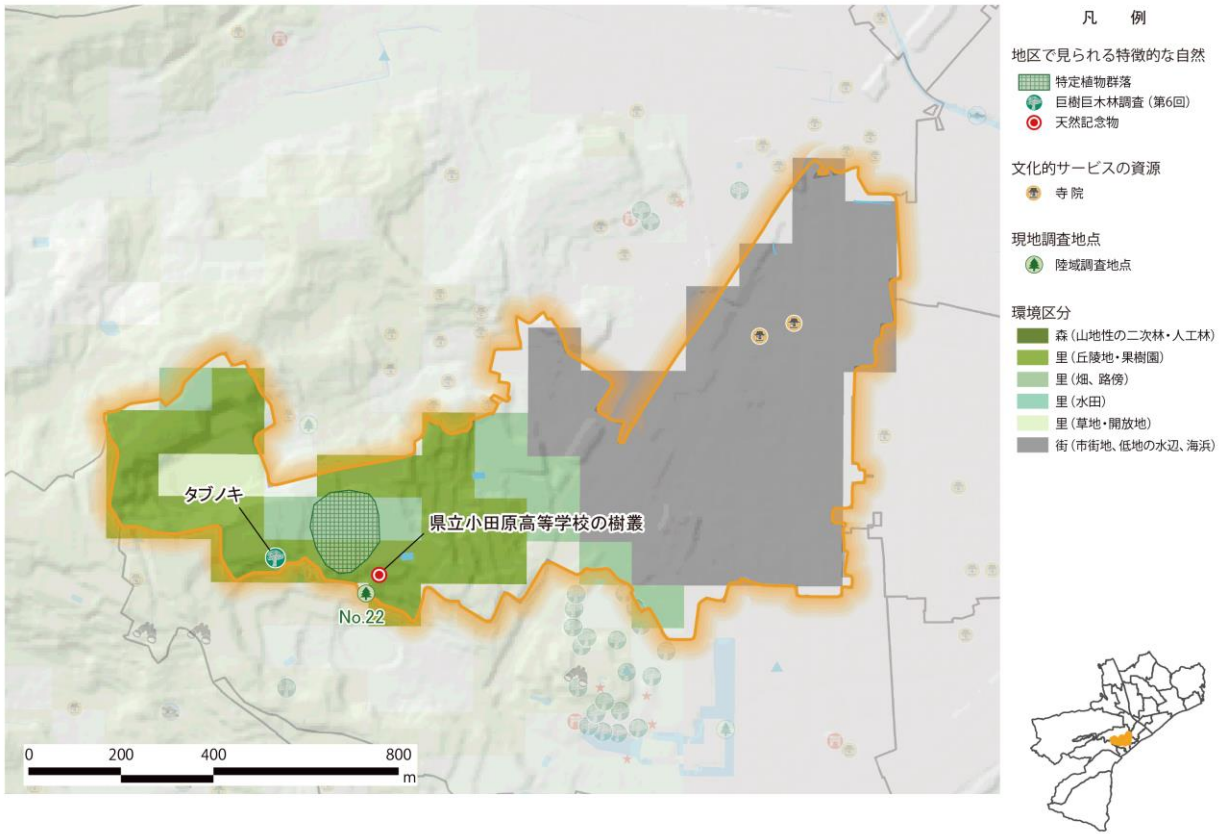
巨樹・巨木林概要

所在地	樹種	樹高(m)	樹幹(cm)	調査年
城山公園	タブノキ	13	450	平成12年（2000年）

※出典：第 6 回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書（環境省自然環境局生物多様性センター、平成 13 年（2001 年））

- **重要地点**：平成 29 年（2017 年）～30 年（2018 年）に実施した自然環境調査結果の評価・分析を行ったところ、「**県立小田原高等学校の樹叢**」は、重要な自然として多数指定を受けているため、将来に渡り守っていくべき重要地点として選定しました。

⁸ 巨樹・巨木林調査：巨樹・巨木林は、わが国の森林・樹木の象徴的存在であり、良好な景観の形成や野生動物の生息環境、地域のシンボルとして人々の心のよりどころとなるなど、保全すべき自然として重要である、として、その全国的な実態を把握することを目的に実施されている調査



緑地区の自然環境マップ